



平成25年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【小山地区】

平成26年3月31日現在

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1 小山共育コミュニティー	小山地域のこども、大人、高齢者のふれあいと協力による安心安全な町づくり事業	最近の地域社会の人と人のつながりの希薄化から、町の汚れ、犯罪の多発、青少年問題、孤立など様々な課題が生じている。地域の子ども、大人、高齢者が一緒になって取り組む活動を通じて、人と人とのつながりを深め、安心安全で美しく落ち着いた、小山の町づくりに努めたい。	小山地区の幅広い世代の交流とふれあいの活動を通して安心安全で美しく落ち着いた、住み良い小山の町づくりを目指す。	・遊びや学びとふれあい活動を通して地域の人々への支援。 ・地域のごみ拾い、美化活動を行う。 ・三世代交流(料理づくり、廃油石けんづくり、昔の遊び体験、語り・紙芝居体験、絵手紙、音楽会)	6月6日	102,000	100,000	100,000
2 小山広報協議会	『おやま広報』発行事業	小山公民館報が平成25年度より発行されることになったが、小山地区内の公的行事等を中心とする情報を一括編集した『おやま広報』を平成22年度より発行してきた。小山地区内で活動する団体の情報は個別に情報発信をしており、読者である住民にとっては不便な面があるため、引き続き地区で活動する団体の情報を提供する。	小山地区内で活動する団体は、事業の実施や活動報告を各団体が発行する広報紙や小山地区の地域情報紙を活用して周知していたが、様々な広報紙により、事業の周知をする事は、情報が埋もれてしまうことが多く、必要な情報の得方が分かりにくいのが現状であった。地域の活性化のためには地域情報の収集、発信、共有は今後も継続していくことが必要であるため、今年度は、小山地区で活動する団体から情報を提供してもらうことにより、埋もれた情報を発掘し、地域の情報を一元的に扱うことにより地域の課題をとらえ、地域活性化を図るもの。	小山地区内の各公的団体活動や行事等の情報を一括してまとめた『おやま広報』を4ヶ月おきに発行する。	6月6日	433,000	430,000	430,000
3 小山地区防災対策協議会	小山地区防災対策拡充事業	・東日本大震災を受け、災害時における住民相互の共助体制の重要性が再認識された。 ・平成23年度からの事業実施により地域住民の「防災・共助」の環境が出来つつあるが、今年度はさらに体制を確立していくことと、事業継続に必要な運営マニュアル等の整備を行う必要がある。 ・地域内の調査(井戸・専門家・災害弱者等)とリスト化を継続実施の必要がある。 ・地域住民に対して防災セミナー、救急救命講習、防災施設見学等を行い防災意識を高める必要がある。 ・相模原市の「災害時要援護者避難支援ガイドライン」とのすり合わせを行う必要がある。	・防災への意識を高め、地域住民が共に助け合う「共助」の環境を整える。 ・災害弱者・要援護者(承諾者)を把握し、助け合いの見取り図を整備する。 ・災害発生から復興段階に有用な各分野の技能・技術・知識を有する住民の掘り起こしと救援活動をリードするメンバーのマイスター・リストを整備する。 ・災害発生時の生活用水の確保のための、井戸の所在と提供に関する情報を整備する。 ・防災セミナーや救急救命講習・防災施設見学などを実施し、住民の防災意識を高める。 ・地域内に24時間いつでも貸出可能なAEDを設置することにより、住民の安心を高める。	・災害弱者見守り活動依頼・実施継続。追加見守り対象者募集全世帯配布 4,000部 ・マイスター募集(通期)、リスト作成・災害時の連絡網構築・整備 ・井戸の継続調査、災害時協力井戸の追加申請・認可・災害時井戸標識設置、3箇所増設予定 ・普通救命講習会実施、2回開催予定、防災セミナー1回開催予定・防災関連広報(防災広報紙、防災マップ等の発行) ・防災訓練(宮下自治会・丸山自治会および小山地区) ・24時間使用可能なAEDの設置(コンビニエンスストアに設置依頼)	6月20日	1,004,000	878,000	878,000

	団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
4	ギャラリーサロン スカイ	小山地域住民のコミュニティ推進活動事業	小山地域は急速に発展し変貌する中で、新しい住民も増えて人とのつながりが希薄になり、各年代間の絆も弱くなってきました。子育て中や高齢者の方々に絵画・写真・書・映画・花等をコレクションした図録やパンフレットの展示を見たり触れたり、また活躍中の作家の講座等を通して文化・芸術を通して世代間や地域の交流を図りたい。	文化・芸術を通じて、子供から高齢者までの幅広い世代の方が交流し集える空間を作り、それにより人と人とのつながりを深め、世代間の絆を強めることにより地域の活性化を目指す。	・氷川町に「ギャラリーサロン スカイ」を開き、週2回(火・土)10時30分～16時までオープンする。 ・来訪者には担当者が展示されている図録やパンフレットの説明や講座の案内をする。 ・月に1回、舞台・音楽・絵画・映画・花・写真等の作家を招き、作品の展示や講座を開催する。	8月19日	338,000	303,000	303,000
5	きらくクラブ	高齢者生きがい事業	我国の75歳以上の人口の割合は現在10人に1人であるが、2030年には5人に1人となる。現在、行われている要支援1、2の方の介護保険のサービスが、地域内の活動へとサービスが移行されていく計画がある。高齢者の自主的な活動が出来る場を作り、交流の場が持てるよう支援していきたい。	・高齢者の自主性を尊重した活動を支援していく。 ・見守りのスタッフがいるなかで安全に集える場にする。	・好きな時に来て自分の好きな活動をしていただく。また昭和の時代のレコードをかけ懐かしい、親しみやすい環境にしていく。参加者が興味のある事や知りたい事があればイベントを開き情報交換ができる体制をとる。 ・見守りのスタッフがいる中で安全に集える場にする。 ・冬休み、春休み等中学生のボランティアに来てもらい話相手になってもらうような世代間を超えての交流も実施していく。	8月19日	739,000	673,000	673,000
							2,616,000	2,384,000	2,384,000